



のいる風景

小林 典幸 さん



【こばやし のりゆき さん】 46歳 清流

●5年前から、支笏湖まつり実行委員会の会場制作管理部長を務め、氷濤まつりの会場制作に携わる。高校時代には、氷濤まつり会場でのアルバイト経験も持つ。
※氷濤まつりの日程などは、8ページをご覧ください。

青く輝く氷像をその目で ご覧ください！

キンと張りつめた空気の中、大
小約30基の氷像が立ち並び、
千歳の冬を代表するイベント
「氷濤まつり」。

まつり会場の制作管理部長を務め
る小林さんは、氷像づくりに携わり
今年で28年目を迎えるベテランです。

氷像づくりは、毎年11月下旬から
木や鉄で骨組みを作成するところから
始まります。12月下旬からは、冷
え込みを見ながら、スプリンクラー
を利用して、細かな霧状の水を骨組
みに吹きかけていきます。水はもち
ろん支笏湖の湖水。「毎年11月に入ると
わくわくします。プレッシャーは
全く感じません」と小林さん。

「氷像は、氷が厚いものほど青く輝
き、迫力が増します。寒さが味方な
ついてくれないと、良い氷像になり
ません」と話します。

水を吹きかける作業は、冷え込み
が厳しくなる夜が中心になるため「冷

えたときこそ頑張るときです。ほと
んど、寝ずに会場内を見回ることも
あります。とにかく、このまつりが
好きだから無我夢中ですね」と笑顔
を見せます。

「テレビを見ていても氷像につなが
るアイデアがないか、常に考えてい
ます。氷河の中を歩く映像を見た
とき『これだ』と思い、5年ほど前か
ら『氷のトンネル』を作りました。
骨組みが一切ない純粹に氷だけのト
ンネルです。私は、自然のものに美
しいと感じることが多いので、氷像
もできるだけ自然の造形美に近づけ
ることが目標です」と語ります。

今年も、小林さんを含め12人のメ
ンバーで氷像づくりに取り組んでい
ます。「会場全体のイメージをみんな
で話し合い、細かな配置などは現場
で考えていきます。自然が相手なん
で設計図はありませんが、今では、
自分の思い描いた氷像を形にするこ

とができます」と話すその言葉は、
長年の経験から得られた自信の表れ。

「毎年、氷像の配置や見せ方を変え
ています。毎年がチャレンジ。1年
ずつステップアップしていると思
います。だからこそ、毎年、新鮮な気
持ちで氷像を作っています」と言う
小林さん。

今年も「氷の展望台ブルーシャ
ー」と会場で一番大きな氷像「ピッ
グマウンテン」を高さ4メートルほ
どの橋でつなぐ「天空回廊」を制作
する予定です。

「毎年、氷像を見てくれた方から『感
動したよ』と言ってもらえます。期待
を裏切りたくないなので、一切妥協はし
ません。昨年の大雨による土砂災害の
影響を心配していましたが、国道
453号の通行止めも無事に解除され
ました。ぜひたくさんの方に、氷濤ま
つり会場に来てほしいです」と力強く
語ってくれました。